第3回

ICFからの福祉用具アプローチ ～活動・参加・生活へ～

高齢者生活福祉研究所・所長
理学療法士　加島　守

福祉用具に関わる専門職には、環境が変われば参加や活動を促し、そして福祉用具の活用で生活が変わる可能性をしっかりと利用者・家族へ示し、提案することが求められています。本連載では「ICF（国際生活機能分類）」の考え方をモデルに、活動・参加、生活を変える福祉用具支援を解説します。今回は手動車いすの導入事例について、ICFの考え方から読み解いてみましょう。

手動車いす編

長時間の外出を支援する車いす

自宅で奥さんと二人暮らしのBさん（70歳・男性）は進行性核上性まひにより、上下肢に可動域制限があり、また肩やひざ、股関節が拘縮していて、日常生活全般に介助が必要な状態です。屋内移動はネックサポートを付けたモジュラー型車いすを使っており、奥さんなどの介助で行っています。

日中は、リフトを活用してできる限り、ベッドから離れて過ごすようにしています。リビングのリクライニング機能が付いたいすが、Bさんお気に入りの場所で、クラシック音楽を鑑賞するのが日課です。もともと社交的なBさんは、たまに昔の職場の友人が訪問してくれると、とても喜んで昔話に花を咲かせています。

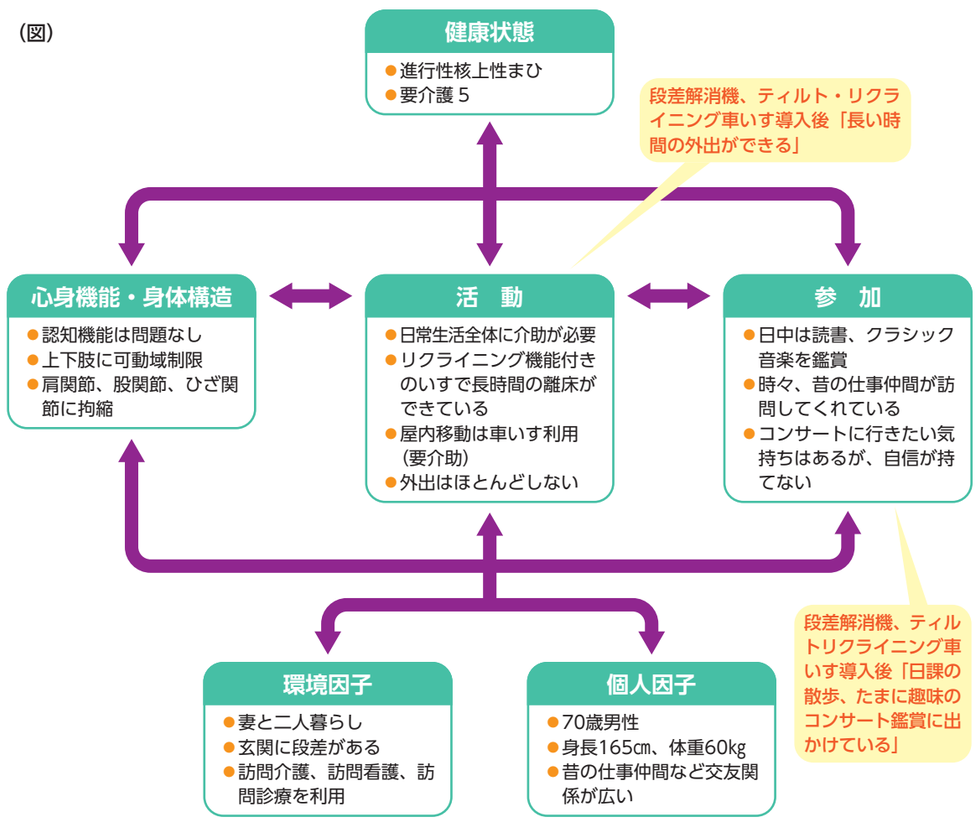
外出はあまりしておらず、ほとんど自宅の中で過ごしています。奥さんが、「以前みたいにクラシックのコンサートに行きたいね」と呼びかけても、Bさんは「もう難しいかな。仕方ないよね」と自信がない様子です。Bさんの生活機能や環境因子から、より外出しやすくする方法を考えてみると、①玄関の段差が車いすでの外出を困難にしている（環境因子）②自分で座り直しはできないが、リクライニング機能付きのいすで、長時間離床ができている（活動）――などが今回の支援のポイントといえそうです。

まず段差解消機を庭に設置し、奥さんの介助でも車いすのまま外出しやすい環境を整えました。その結果、週に1、2回は奥さんと散歩ができるようになりました。こうした変化がBさんの意欲や自信に繋がり、改めてコンサートに行きたいかの意思を確認すると、「行きたい」と答えてくれるようになりました。

そこで、車いすをティルト・リクライニング式の手動車いすに変更しました。介助者が定期的に姿勢を変えることで、Bさんはより長い時間、外出できるようになり、ついに念願のコンサートへ奥さんと行くことができました。

この事例では、音楽好きのBさんの「コンサートに行って楽しみたい」というニーズを実現するために、何が生かせて、何が障がいになっているかを、ICFの体系的な視点から検討したケースです。利用者の状態、活動、参加、そして環境が、それぞれ相互に作用していることを常に意識し、よりよい支援に繋げていただければと思います。

（図）



商品のご案内

―イノアックリビング―
「Swimo（スイモ）コーティングタイプ」

価格：4万円（税抜）
☎0120-790-593

作業療法士と共同開発した自立支援型車いすクッション。独自開発のウレタン3次元構造が、座るだけで正しい姿勢に導き、立ち上がりの負担を軽減することで、自立した車いす生活をサポートする。

座面は、後方がすり鉢形状で、座るだけで骨盤を適切な位置へ誘導し、骨盤を包み込むことで正しい姿勢を維持する。

座面前方の隆起部分が大腿部の支点となり、座るときは先に大腿部にクッションがあたることで着座をリードできる。

立ち上がるときは前屈みになることでシーソーのように臀部が浮き、自然な立ち上がりをアシスト。下肢の負担が少ない立ち上がりを実現し、介助負担軽減にも繋げる。

コーティングタイプの手入れは清拭だけと簡単に行える。

色はパープル、スカイブルー、レモンイエローの3種。

―西川―
「円背対応クッション（車いす用）」

価格：6,000円（税抜）
☎06-6262-9170

シニアの快適な睡眠・介護環境をサポートする「グッドナイトプラス」シリーズ商品。円背の人でも背中の丸みにフィットし、安定した姿勢をサポートする。

中央部分には取り外し可能なウレタンフォームの低反発シートを採用。両サイド部分はやわらかいポリエステルわたを出し入れすることで、背中の丸みの状態に合わせて高さを調節できる。

首・肩・背中をやさしくサポートするとともに、身体と車いすの隙間にフィットして、ゆったりと安定した姿勢を支える。

裏面にはすべり止め加工を施し、ズレを防いでしっかりセットできる。ニット地のカバーと本体は洗濯でき、清潔に使用できる。サイズは50×50㎝。

電動リクライニングベッドなどで使える「寝姿勢・座位用」（税抜6000円）も。

―日進医療器―
「ウルトラシリーズ」

価格：NAH-UC・Hi 20万6,000円、NA-U2W・BG 17万5,000円（ともに非課税）
☎0568-21-0635

座り心地と軽量・コンパクトさを両立した車いす。座った状態で理想の快適姿勢を実現する「3Dバックサポート機能」により、バックサポートは骨盤を包み込むように支え腹部の圧迫を回避、レッグサポートフレームは膝がしっかりと屈曲し骨盤を安定させる。

昨年9月発売の「NAH―UC・Hi」（写真）は座幅42㎝のゆったりタイプ。背シート高は53㎝で、背の高い人でもしっかり背中まで支える。座面高45㎝＋クッションにより足が長い人でも膝が上がらず、太ももの裏でも体重を支えることで体圧を分散させる。ティルト・リクライニング機能付き。

また、「NA―U2W・BG」は座幅45㎝のワイドタイプで、体格が大きい人でも臀部が窮屈にならず快適。ひじ置きもしっかり使える。

両機種とも耐荷重120kg。

―松永製作所―
「マイチルトミニ3D」

価格：19万8,000円～（非課税）
☎0584-35-1180

全幅53㎝、全長89㎝と、標準型車いすよりコンパクトなティルト&リクライニング機種。

小柄な女性でもしっかり座れるよう、座面シートの奥行きは35㎝と短めで仙骨座りを防ぐ。左右別々で張り調整をする「立体スリングシート」は、正面・側面・上面から姿勢を整えられる。また、「背フレーム前折れ機構」で、円背の人でも座位を安定させやすい。

前後・左右・角度をフレキシブルに設定できる「スネークヘッドサポート」は、従来よりも低い位置から設定でき、小柄な人にも合わせやすい。

これらの調整機構により、食事の際などに、安楽で適切な座位姿勢を支える。

全長は従来機種より10・5㎝短く、後輪を浮かせてキャスターだけで駆動できるタイプもあり、真横への移動やその場での旋回ができ、小回り性が高い。

プラネット 熊本で研究大会開催

可搬型階段昇降機のランチョンセミナーも

福祉用具プランナー研究ネットワーク（奥田匡宏代表理事、プラネット）の研究大会が7月21日、熊本市内で開催された。2014年の設立以来、研究大会は今年で5回目を迎え、初めての九州地区での開催となった。「みんなひとつのチームだモン！」をテーマに、100人余りの多職種が集い、用具の活用などについて熱心な発表・報告などが行われた。

プラネットはテクノエイド協会が認定する福祉用具プランナーとプランナー管理指導者資格を持つ人の集まり。福祉用具プランナーは、福祉用具専門相談員、理学療法士・作業療法士、設計士・看護師らの資格者で構成される。個人会員と協賛会員で構成され、会員は510人。「研修」「研鑽」「研究」の三研を活動に掲げている。年に1回の研究大会は主たる事業の1つになっている。

今大会では、会員から寄せられた8つの口述発表、ランチョンセミナー、3つの特別講演と、協賛会員によるプレゼンテーションと展示、地区会の取り組み報告が行われた。

ランチョンセミナーは可搬型階段昇降機安全推進連絡会によるもの。可搬型階段昇降機は安全面の担保から機種別講習を実施しており、大きくリフトアップ式とクローラ式の2つのタイプがあることを説明。操作の実演をして見せながら個々の機種の特徴を述べた後、試用体験も行われた。参加者の中には初めて体験する人もあり、操作法などを熱心に質問していた。可搬型階段昇降機は介護保険レンタルでの使用の他、病院や施設での利用が広がっている。

また口述発表では男性の排泄ケア用品や、障がい者グループホーム世話人を対象にした福祉用具利用調査、中国都市部の高齢者施設での介護と福祉用具利用状況報告など幅広いテーマが寄せられた。排泄ケアを推進する堺谷珠乃さんの男性用の排泄ケア用品アプローチの発表では、「おむつの相談は女性だという思い込みが貸与事業者にもあるのではないか」と指摘し、男性の自尊心を傷つけることなく専門知識を持ってアドバイスすることの重要性を強調した。

なお、研究大会に先立って開かれた総会では、奥山代表理事の再任、監事に新たに寺光鉄雄氏（テクノエイド協会調査）が承認された。

可搬型階段昇降機安全推進連絡会によるランチョンセミナー